広田っ子

～本物の笑顔が輝く広田小～

佐世保市立広田小学校　学校だより
第５号　令和４年９月９日（金）
文責　井上　文典

「**本物の笑顔**」に簡単アクセス
広田小HP　QRコード

9月に入り、朝夕は少しずつ季節が変わってきていることを感じます。
しかし、まだまだ日中は30℃を超える日が続いています。学校では、引き続きコロナ対策に加え、熱中症にも気をつけながら教育活動を進めています。また、9月に入り、台風の接近もあり、臨時休校や日課の変更などで保護者の皆様、見守り隊をはじめ地域の皆様にもご協力をいただきました。ありがとうございました。これから台風シーズンにもなります。備えはしっかりしていきたいと思います。

「広田ベーシック３」始めました

2学期が始まり10日が過ぎました。子どもたちは、徐々に学校生活のリズムにも慣れ、笑顔がどんどん多くなってきています。この笑顔をさらに輝かせるために、2学期から全校でしっかり頑張っていくことを「広田ベーシック３」と銘打って、実践しています。

広田ベーシック３

その一　はきものをそろえる

その二　へんじをしっかりする　あいさつをしっかりする

その三　チャイムの前に着席し　目を閉じて開始を待つ（10月より完全実施）

その一の「はきものそろえ」は年度初めから実践し、下駄箱は一人一人がしっかりと意識し、さらには習慣となり、靴のかかとがしっかりと揃うようになりました。高く評価しています。しかしながら、トイレのスリッパは課題があります。トイレのスリッパは個人のものではありません。だから次に使う人への思いやりも含め、道徳的な実践力が必要になります。ここに子どもたちの「伸びしろ」があると考え粘り強く実践教育を進めているところです。

その二の「へんじをしっかりする」「あいさつをしっかりする」は、まずへんじをしっかりさせることで、学習に対する当事者意識を上げ、指示や説明を自分のこととして受け止める習慣をつけさせたいと考え指導しています。また、あいさつについても、マスク着用の中ではありますが、礼節を身に着けることがコミュニケーションの基礎であることを学年や発達段階に応じてしっかりと伝え、繰り返し指導していきます。（あいさつについては副校長も全校放送等を通し、継続して指導と啓発をしていきます）

その三の「チャイムの前に着席し　目を閉じて開始を待つ」は、6年生はすでに以前から実践しています。他の学年でも実践している学級が複数あります。学びに向かう意識や姿勢をもたせることに大変効果があると考えています。また、学校でもタブレットを活用する頻度が上がり、情報量の増加に加え、画面を凝視する時間も多くなっています。目を少しの間休ませ、45分間の学習に臨むための心の準備のためにも、授業開始前に少しの間目を閉じて黙想し、授業に臨むようにさせます。

学力は子どもたちの自己実現のための重要な要素です。そして、その学力は学びを支える土台がなければ身に付きません。本校では「広田ベーシック３」を通して、日々の学習を支えるための心と体の構えをしっかりと育てていきます。

１７年ぶりに運動会（１～５年生）を広田小の運動場で行います

　すでにご案内の通り、延期しております運動会を１０月３０日（日）午前に本校の運動場で実施いたします。

　本校の運動場で実施する運動会は１７年ぶりになります。１７年前までは６年生も含め、１０００人を超える児童数で、限られた空間の中、職員と子どもたち、そして保護者、地域の皆様が力を合わせて開催されていたことが様々な資料から伺えます。

　この度の会場の変更は、延期による練習時間の制限や、東部グラウンドへの移動時間の確保の難しさ等から総合的に判断をいたしました。また、児童数が減少し（６年生は中学校で実施）、工夫をすれば本校舎運動場での実施が可能であること、さらに児童用イスに着席して見学できることなどのメリットもあり、工夫するポイントを思考しながら計画と準備をしているところです。一方、課題としては参観される保護者の皆様の観覧の仕方があります。このことについては１７年前までの記録などを参考にして、計画を立て別途お知らせいたします。

　ある保護者の方から「自分が子どもの時はこの運動場でしていましたよ　懐かしい風景がもどりますね」という言葉をいただきました。延期したことにより会場を変更することになりましたが、課題については、学校としての工夫と皆様のご協力をいただきながら解決を図り、本校舎運動場ならではの良さを生かして練習、本番を迎えていきたいと思います。

　久しぶりの本校舎での運動会、これも子どもたちの笑顔とともに歴史に残していきたいと思います。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

ひとこと

本物の笑顔のために（その４）

「自分から」「自分で」

「あいさつは自分から」
「はきものそろえは自分で」　等々
「自分から」「自分で」という言葉をよく使います。
自分からという行動は、瞬時に思考と判断、決断と実行の力が必要になります。
そして、その実践の繰り返しが正しい習慣となり、他者を支え、支えあいながら生きていくための大切な力になります。
「自分で」という行動は依存から離れ、自分でできることを一つずつ増やし、その人の個性に応じた自立を醸成していきます。
「自分から」「自分で」の素材は日々の生活の中にたくさんあります。特にあいさつなどは心のシーソーをしっかりと頑張るほうに傾け、自分からあいさつできるようにしていきたいと強く思います。
夢をかなえるためには「自分から言えた」「自分でできた」等の日々の小さな自己実現の階段を上っていく必要があると考えています。
これからも「自分から」「自分で」の言葉を温かくかけ、優しいまなざしで見守りたいと思います。